

## 第2学年「みがく」学習活動案

授業者 岩坂 尚史

2月21日(木) 2階C室 10:00~10:40 話し合い10:55~11:45

### 1 活動名 生活を見つめて～どのようにして解決すればよいのかな～

### 2 活動について

二年生は、一年生のころから、毎日のようにサークル対話を行い、思ったことを語り合い、聴き合うことを中心に据え日々を過ごしてきた。語り手は自分の興味関心や生活の気づきを話すことができ、聴き手は思ったことを自由に質問し合える。お互いが安心して自分を出し合えるような空間でお互いが聴き合うことは、新たな気づきにつながっていく。子どもたち同士が学んでいけるような環境を、子どもたち自身の手で作っていけるように、たっぷり時間をとってきた。

このように、毎日のサークル対話を通して、子どもたちにとって何でも話し合える空間ができてきているが、一方で、日常でお互いの思いがすれ違うことは当然ある。

そこで、具体的な話題から自身の生活や日常生活を振り返り、少しずつ子どもたち同士で解決することができるように、学習を進めている。ただ、具体的な話題を取り上げると、子どもたちの利害が表面化し、感情的になることがある。そのため、ピースフルスクールプログラムを参考にし、子どもたちが共感的になる場面を人形劇で示し、自らを客観視し、劇の内容について考えるようにしている。

今活動で意識したいことは、日々の生活を送る中で起こる具体的な話題について、感情が表面化せず、子どもたちが考えるためにはどうすればよいかということである。そのために、誰かと誰かが対立しているような個人的なものでなく、クラスの皆が共感できるような事例を取り上げたい。

そこで、ベランダ側のカーテンを閉めるか閉めないかという話題を子どもたちに提示する。よく晴れた日、ベランダ側の子どもたちは、冬でもカーテンを閉めたがる。というのも、太陽の光がよく差し込みまぶしくて暑いということと、暖房器具が近くにあるということが主な理由である。対して、窓側でない子どもたちは、カーテンを開けた方が、明るい・暖かい・外が見えて開放的などの声を上げる。窓側の人間にとっては、座席をコの字にしている関係で、外の景色など関係ない。また、ちょうど真ん中あたりに位置する座席の子にとっては、カーテンを開けた方が、適度に暖かく、明るく過ごせるだろう。

この問題には、それぞれが権利を有していること、それぞれの妥当性のある意見がある中でどのようにして解決すべきか等考えるべき点がある。話し合いを通して、自分の意見を持って、学校やクラスの集団に参加し、一緒に協働して社会を作っていくための自立と共生の力を育み、中学年以上で時事問題や社会的論争問題を解決する素地となってくれることを期待する。

### 3 学習活動計画(2時間目/全5時間)

第1時…カーテンを閉めるか、閉めないかについて自由に話し合い、問題点を把握する。(1時間)

第2時…解決すべき点について、意見を出し合う。(3時間…本時1/3)

第3時…話し合いを振り返り、自分の意見を書く(1時間)

### 4 本時の活動について

#### (1) 本時のねらい

○解決する方法を考えることを通して、どの立場にも納得しうる意見があることがわかる。

#### (2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時の振り返りをする。	○問題点をわかりやすく整理して提示する。
2 提示された問題点について意見を出し合う。	○具体的な思いとつなげて考えることができるようにする。
3 ふり返りを行う。	

### □授業後の話し合いで話題にしたいこと

低学年で行う対立する論争問題学習はどう行うべきか。